



ジェンダー平等「講演とシンポジウム」(安藤コーディネーター)

種市正之水産局長にホタテ問題申し入れ
(県議団、高橋前衆議院議員、おぎの参議院予定候補、
青森市議団、むつ市議団、横浜町議、平内町議、外ヶ浜町議)

平内の水産総合研究所へ(左からよしまた洋県議、工藤祥子むつ市議、私、田端深雪県議、高橋千鶴子前衆議院議員、安藤英博外ヶ浜町議、おきつ正博横浜町議、田中光弘平内町議)

新・アジサイだより

日本共産党青森県議会議員
安藤はるみの

SIDE-A



つくり手と

買い手を守る米づくり

(はるみのワクワク川柳)

安藤はるみの活動日誌

- 5月10日 相沢良碑前祭、ギャンブル依存症セミナー
11日 ジェンダー平等「講演とシンポジウム」(写真)
13日 衆議院第2会館にて
「核のゴミから未来を守る青森県民の会・
ヒヤリング集会」(写真)
15日 共産党県委員会ホタテ問題対策会議
17日 孫の小学校運動会
18日 地元小学校運動会、弘大周辺おぎの
押出行動(写真B面)、核燃の会市民講座
20日 23日 28日 大成後援会と行動
21日 経済交通観光委員会で質問(写真B面)
22日 津軽保健生協三大支部総会
25日 城東後援会主催議会報告会(写真)
26~27日 経済交通観光委員会県内調査<西北・中南>
(写真B面)
29日 ホタテ問題で知事あて申し入れ(写真)、団会議
6月1日 久渡寺手前・坂元「ホテル池」調査
2日 水産総合研究所でホタテ調査(写真)、
浅虫水族館見学、青森県鉄道整備促進期成会総会



議会報告会(小比内農業研修会館)

核のゴミヒヤリング集会
(衆議院第2会館で県議団と鹿内県議)

(斬新的な会社の調査)

ほっとタイム



4月から経済交通観光委員会所属となり、先月初の県内調査がありました。そこで見てきたこと聞いたことにさわやかな驚きを感じました。平川市にある津軽おのえ温泉福屋を経営しているタグボート株式会社では、社長の水口清人氏よりCRAZY CIDER(クレージサイダー)というりんごの果実酒を製造・販売し、さらにアップルブランデー「CRAZY DAYS」を販売開始している事などの説明、クラウドファンディングで213万円を獲得し「若い人たちの笑顔があふれ自分たちの郷土に誇りを持てる会社(社会)を作りたい」と抱負が語られました。弘前大学研究・イノベーション推進機構で行う「職員や学生に対しての起業活動支援の取組」調査では、工学博士の佐々木一哉教授よりリチウム回収ベンチャー株式会社を立ち上げ、日米英の投資家より10億円のシード資金を調達し、油田排水等の地下水から高純度リチウムを採取・抽出する装置などの商業製品を開発、米国テキサス州でのデモプラント建設・運用、全世界を想定した事業化可能性調査を予定しているとのことでした。apple株式会社社長の藤巻健史氏からは、廃棄されるりんごの皮や搾りかすを原料の一部として使用したヴィーガンレザー「RINGO-TEX」を開発・製造・販売する「アップサイクル事業」を展開する東北発のスタートアップ企業で、フードロス問題や地方創生の解決、そしてサステナブル(持続可能)な社会の実現を目指すことを目的とし、世界を視野に入れた活動についてお話をしました。(株)KOMORUが経営する「こもる五所川原」という宿では個人宅を改装して「自分と向き合うための時間」を提供。県外・海外からのお客さんから喜ばれているようでした。同会社が「Adam」という青森県産りんご搾りかす100%を使用した新しいシート材料を開発し、バックや名刺入れなどを商品化し販売していること紹介されました。

今回見てきた素晴らしい発想力で事業化を進める取り組みは、青森県の明るい未来を感じるものでした。

発行：安藤はるみ

事務所 弘前市宮川2丁目3-2 電話0172-35-7021
9:00~14:00(土・日・祝日左記時間以外は留守電対応)

自宅0172-35-2270

Eメール ando.harumi@theia.ocn.ne.jp ホームページアドレス http://ando-harumi.com/

X(旧)Twitter 安藤はるみ 日本共産党 で検索 フォロワー814人

5月の相談件数8件
ホームページアクセス数 5月96,425件

日本共産党青森県議会議員
安藤はるみの
新・アジサイだより

SIDE-B

アジサイ便りを読んだ
ご感想や、委員会など
議会で取上げて欲しい
ことなどありましたら
お寄せください♪



委員会で質問

(5月21日経済交通観光委員会での質問)

廃線が打ち出された弘南鉄道大鰐線への
これまでの国・県・弘前市・大鰐町の支援内
容と額を問う

菊池礼仁鉄道対策課長は「安全輸送設備
等の整備に対し、国が三分の一、事業
者が三分の一、県と沿線市町が其々六分
の一の補助となっている。また沿線市町
は、弘南鉄道維持活性化支援計画に基づ
き、令和7年度まで安全設備等整備の
補助の事業者負担分や運行欠損の補助
を行うとともに大鰐線脱線事故や新型
コロナ禍に対応する支援を行っている」と
とし、「支援額は、令和6年度県565万
円、弘前市9387万円、大鰐町2843万円」と
答弁しました。

市町の負担が大きいのは、市町が弘南
鉄道維持活性化支援計画を制定し事業
者が捻出できない事業者負担分や運行
欠損分を市町が肩代わりし運行維持に
尽力してきたからです。

安藤は、今回の質問に先立ち調査した
沿線の私学2校の状況、東奥義塾では
廃線を想定し既にスクールバス4台を
稼動し苦勞されていること。聖愛では大
鰐線利用者が現在50名おり影響は少な
くないことなどを紹介し、今後こうした
教育関係機関との協議も踏まえ代替交
通の整備の充実を求めました。

この他、交通・地域社会部分で●青森県
ローカル鉄道連携会議について●津軽
鉄道のダイヤ改正についても質しまし
た。

観光入込客統計の調査方法を問う

青森県は青森県観光入込客統計を出
し令和5年は3119万2千人と公表し、市
町村中一番多いのは弘前さくらまつり
の204万人、そして弘前ねぶたまつり137
万人、青森ねぶた祭101万人と続きます。
今回この問題を取り上げたのは私の下
にこの公表されている入込数の信ぴよ
う性を問う声が寄せられているからで
す。観光客をいかに呼び込むか大切な課
題ですが、実態をしっかりとつかむことも
大切だと考え取り上げました。

佐藤宏観光政策課長は、青森県観光入込
客統計の調査方法について「官公庁が定
める観光入込客統計に関する共通基準
に基づき、県内の観光施設や祭り、イベ
ント等を訪れた観光入込客1人当たり
の平均消費額を示した観光消費額単位
及び観光入込客の総消費額を示す観光
消費額の3つの指標を調査する。具体

的には、各市町村からの報告や県が観光
客へのアンケートにより実施するサン
プル調査等を用いて県内客や県外客、日
帰り客や宿泊客の属性ごとに観光見込
み客や観光消費額を推計している」と答
弁。市町村における観光入込客統計の調
査方法については「施設などから得られ
るデータやスマートフォンなどの位置情報
から得られる人流データ等を用いて実
践する調査を行っている。また、実数の
把握が難しい場合には、例えばレジに並
んだ客数や駐車台数など代わりのデー
タを用いて観客数を推定している」と答
弁しました。再質問で、スマホの位置情
報からデータをとっている事例は青森
ねぶた祭だと分かりました。

安藤は、デジタル化が叫ばれる中、観
光客数を調査するのにデジタルを活用
するなど、より正確な入込数が把握でき
る体制の構築を求めました。

消費税減税は中小企業の経営支援につな
がるため、県としても実現に向け国に声を
あげよ

梁田隆経済産業政策課長は「消費税減税
がもたらす県内中小企業への経営への
影響については、制度の具体的な設計は
もちろんのこと、その時々々の経済の情勢
もろろのこと、その時々々の経済の情勢
もろろの企業の状態などにより異なっ
てくるもの。県としては、引き続き県内中
小企業の経営状況の把握に努めながら
支援策を検討実施し、国の動向を注視し
適切に対応していきたい」としました。
安藤は、法人税実質負担率は小規模企業
が18.5%、中堅企業が20%に対し、大企
業は実質10%と約半分であることを指
摘し、担税力を持つ大企業と富裕層に応
分の負担を求め消費税減税を訴えま
した。

この他、経済産業部分で●りんご剪定枝
などの未利用資源を活用したアップルサ
イクルビジネスの推進についての県の取
組、県内企業の取組事例について質しま
した。



おぎの参議院予定候補、三浦市議、
文京後援会の皆さんと弘大前で



金木地域公共ライドシェア調査



宿「こもる五所川原」調査

はるみ事務所の風

5月のはるみ事務所はとっても春でした。
Kさん宅からいただいたお花たち、白・ピンク・紫・赤・黄色が
ワッサワッサ、作業台がお花畑でした。作業できないほどに。
花瓶足らん。
そして朝、事務所に来ると、ハラハラボタボタと日に日にお花が
さようなら。
今、残っている子はドウダンツツジちゃん。ダイソーで買ったち
っちゃい小瓶に。
そして新入りがきました、赤紫色のシャクヤクちゃん。めごめご。



ドウダンツツジちゃん